

大分大学教育学部同窓会（豊友会）大野支部便り

盛夏の候、会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと推察いたします。平素から豊友会大野支部の活動にご協力、ご支援をいただき厚くお礼を申し上げます。

さて、本年5月14日（土）大分県教育会館で評議員会（総会）があり、久保田・内野の2名が参加しました。

古賀教育学部長からは豊友会の支援に感謝するとともに、44国立教員養成大学で2年連続の教員就職率全国1位、令和5年度から教育学部の学生定員増などという学校・学生の頑張っているお話がありました。

秦会長からは、コロナでの活動の停滞の中で新学習指導要領の実施、生きる力を育むための授業改善の成果と課題等についてのお話がありました。更に教員不足が全国的に深刻となり、大分県でも昨年度小学校15校、中学校17校で教員が不足したとのお話でした。大量の退職者が出る一方で教員の志願者数が減少しているからだそうです。過労死ラインを超える長時間労働、生徒指導や部活動、保護者への対応や外部支援での過重労働等、学校はまさにブラック企業と言われ敬遠されているからだということです。私たち退職者は地域の宝物である子どもの見守り活動や、学校が必要とする支援活動に耳を傾けることが必要だとのお話でした。

議事では、書面審議で承認された令和3年度の会務・会計報告と、4年度の事業計画・予算について審議し承認されました。コロナの影響で殆どの支部が総会や教育文化講演会などの活動ができず、幼年教育・技術教育など大学への研究助成事業が行われたそうです。新たな取り組みとして、ホームページで各支部の紹介やフォトギャラリーなど支部や会員の情報を発信するようになりました。

今年度会費納入者数は県4018名、豊後大野市156名となっています。コロナによる生活様式の変化は3年目を迎えていますが、近年はいろいろな面で「時代の移ろい」を実感します。例えば各種組織に対する考え方です。以前は「つながり」「絆」が重宝されいろいろな組織に当然のように加入したのですが、今は加入の働き掛けが必要になりました。その折に問われるのが「入会の意義」です。組織の在り方や勤年延長で退職時が不明確となったこと等も影響していると思いますが、こうした時代の変化を見据えた会の運営が必要と考えているところです。

そこで、大野支部では、評議員と世話人（会費を集める方）にご参加いただき、7月9日に総会と研修会を開催しました。総会では、会務・会計とともに、豊友会の意義や活動の在り方を話し合いました。研修会では、現職の山田忠司校長先生・弓削直之校長先生から豊後大野市が推進している小中一貫教育についての説明と、安心・安全な子どもの通学についての現状をお話いただきました。世話人の方が皆様のお宅を訪問した際に、話題にしていだければと考えます。

2022年度役員

会長 久保田正治（三重町）

副会長 靄田良人（朝地町） 原田睦枝（女性部 三重町）

事務局 内野貴文（三重町） 山田忠司（現職者三重第一小）

地区役員（各町の世話人）

・野津町：亀井道雄 三重町：大林眞二 清川町：高山紀子 緒方町：三代誠子

・朝地町：靄田良人 大野町：衛藤玲子 千歳町：廣末忠義 犬飼町：秦正也

*世話人が変わります。緒方町の児玉哲也先生、大野町の黒野徹先生、大変ご苦勞様でした。三代先生、衛藤先生、よろしく申し上げます。

文責：豊友会豊後大野支部長 久保田正治